

こんにちは！ 日本共産党の **好きです！憲法9条**

大名みえ子です

ご相談はお気軽にお寄せください

2014年2月21日 No.234

〒319-1112

東海村村松2401-2

toukai@oona-mieko.info

電話・ファックス 029-284-0761

議会原特委で福島県広野町の除染・廃棄物仮置き場 及び 東電福島第一原発を視察



広野町の放射性廃棄物仮置き場(49,000㎡)の一角
(左奥の方は、地下に置いている。右にいくに従い
その上に重ねて置いている状況)

〈広野町〉

2月13日、議会原特委は、福島県広野町の除染事業と除染で発生する放射性廃棄物等の仮置き場、及び東電福島第一原子力発電所の視察に行ってきました。

広野町の除染事業は、清水建設(株)に、2011年度から2013年度委託。除染に関わった作業員は、最高時約1,400人。7～8割は福島県内、約2割は県外の人。

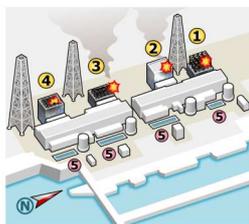
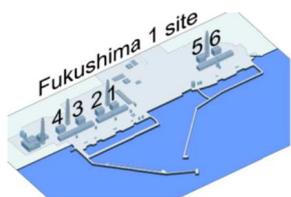
清水建設は、作業員全員にマスクを支給。外部被曝測定用のガラスバッジを全員に持たせ、3ヶ月ごとに全員がホールボディカウンター測定をしているそうです。

町内の除染対象は、①一般住宅約1950ヶ所 ②集合住宅・公共施設・工場等約50ヶ所 ③町道他約120km ④森林 生活圏約73ha 沿道約130ha ⑤農地約300ha ⑥空地等約26ha ⑦農道約13ha ⑧墓地約17ヶ所

除染の方法は、堆積物除去、高圧洗浄、拭き取り、表土剥ぎ取り、除草、落ち葉除去、木は根元から2m切り落とすなど。表土剥ぎ取りは、一律剥ぎ取りではなく、作業員数を増やして測定をしながら必要な剥ぎ取りを行い、除染量を減らすようにしているとのこと。最後に除染物は、町の仮置き場(町有地)へ運ぶという作業になっています。そして国の中間貯蔵施設が設置されるまでの3年間、この仮置き場で管理をするという計画になっているとのこと。

放射性廃棄物は増える一方で、処分方法も確立しておらず、見通しが立たないこの問題にとっても暗い気持ちになります。このような事態は二度とあってはならないことですし、起こさないためには、原発からの撤退が最も確実です。

〈東電福島第一原子発電所〉



このニュースでは、報告しきれませんので、感想程度の報告になります。

Jービレッジから発電所までの道のり、荒れ果てた農地や多くの戸閉めになっている家々をみて、ここに住んでいた方々のことを思うと、何と残酷な事態かと改めて胸痛くなりました。

発電所敷地内視察では、写真は撮ってはいけないということで、荷物は全てJービレッジのセンターハウスに置いて、敷地内では、靴カバー、手袋、ヘルメット、マスクをつけて東電の視察者専用バスに乗りました。

視察は、バスで移動しながらバス内からの視察でした。大地震で外部電源確保ができなくなった送電線の鉄塔は、今も無残な姿のまま倒れていました。発電所敷地内で行き交う作業員(一日約3,000～4,000人)は、当然ながら全てつなぎの作業服に全面マスク姿で、とても異様な感じがしました。東電職員は説明で「一生けんめい復旧に努めている」とのことでしたが、そのこと自体はその通りだと思いますが、あまりに修復させなければならぬ箇所が多すぎて、何人作業員がいても、何日かかっても終わりがこないのではと私には思えました。また、原子炉は、約15℃～35℃で冷温停止状態ということですが、次々発生する汚染水対策など、気が遠くなるほどの尋常ではない今回の事故の規模を再認識させられました。

やはり、どう考えても福一がこの状況で、事故の解明もされない中で、原発の再稼働というのはあまりに無謀です。やってはいけないことです。